

高校生が教えてくれた、このまちの「支え合うチカラ」

JRC部の活動は、地域の様々な人と連携・協力しながら行っています。一緒に社会貢献活動等を行ってきた飯南町社会福祉協議会、保健福祉課のお二人とともに、地域での活動について振り返りました。



飯南町社会福祉協議会
コミュニティワーカー
大坂 俊光 さん

飯南高校1年
JRC部 **板垣 朱音 さん**

飯南高校2年
JRC部 **和久利友瑚 さん**

飯南町保健福祉課
山戸 由紀 主任保健師

和久利 以前は自分のことしか
地域での社会貢献活動を通し
て、自分自身に変化はありまし
たか。

大坂 地域の人々も、生徒の皆さん
と顔の見える関係だと、自然と協
力したくなるんだと思いますよ。
山戸 JRC部は野菜摂取量を
測定する「ベジチェック」にも取
り組んでくれました。将来の健
康に向けた予防医療に着目し、
活動の幅も広がっていますね。
高校生が啓発活動をする、地
域の皆さんの意識も変化しやす
いと感じます。

板垣 私もJRC部に入ってから、
まちに知り合いが増えまし
た。やりたいことを相談すると、
皆さんが快く協力し、一緒に動
いてくださいます。

和久利 全国大会で聞いた地元
企業との連携など、地域色ある
取組が面白かった。私たちが
テーマにした「ウェルビーニン
グ」は、飯南町だからできた活
動。人のつながりが強いから、私
たちのやりたいことがどんどん
実現できたと思います。

板垣 町全域に活動を広げてい
きたいです。また、子どもや高齢者
と活動することが多いですが、こ
れまで接点の少なかった若者世
代とも一緒に活動したいです。
山戸 特別な活動でなくとも、
顔を合わせ、何でもない話をす
るだけでも良い。高校生は、それ
だけで地域に元気を与えてくれ
る存在ですよ。

和久利 今後、地域でやってみたいこ
とはありますか？

大坂 社会貢献活動って「誰かの
ために」と考えて行動しますよ
ね。他者を考えることは、自分を
知ることにつながる。私は高校生
の皆さん自身が、強く、優しく
あってほしいと願っています。身
近な人を大切にするのが、その
先の支え合いや、自身の成長につ
ながっていくと思います。

板垣 中学生までと違うのは、
自分たちで考え、行動すること。
活動テーマも自分たちで決めま
すが、関心事を地域で深掘りし、
みんなで話し合いをすると、地
域が抱える課題が見えてくるよ
うになりました。

JRC部と連携した地域活動
のご相談など、お気軽にお問
い合わせください。
島根県立飯南高等学校
76・2333



飯南高校JRC部

全国高校生 ボランティア・アワード

特別賞受賞！

JRC部と見つける心身ともに豊かな暮らし

「誰かの役に立ちたい！」と願い、地域で活動する飯南高校JRC部（JRC：青少年赤十字の略）。

このまちで、誰もが自分らしく、満たされた状態で暮らしていくために、私たちができることは何なのか。全国大会特別賞に輝いた飯南高校JRC部と一緒に考えます。



大会特別賞 「日本赤十字社JRC賞」受賞

8月4日から5日にかけて東京
都で開催された「全国高校生ボ
ランティア・アワード2026」。全
国から代表出場した78団体が、各
地域で取り組む社会貢献活動に
ついて、審査員や来場者に向けて
ブース発表をしました。
飯南高校JRC部は、地域と連
携した福祉活動と、情熱溢れるプ
レゼンテーションなどが高く評価
され、初出場ながら、特別賞の「日
本赤十字社JRC賞」（JRC最高
賞）を受賞しました。

誰もが生き活きと 暮らし続けられるまちへ

JRC部は「ウェルビーイング
ないなん暮らし！」と題し、これ
まで実践した社会貢献活動等を発
表しました。

「ウェルビーイング」とは、身体
的健康・精神的健康・社会的充足感
の全てが満たされ「幸せ」を感じら
れる状態。JRC部は、高齢者宅訪
問などの活動を、ウェルビーニン
グの視点から捉え、誰もが生き活
きと暮らし続けられるまちづくり
のためにチャレンジを続けていま
す。

気づき・考え・実行する

関心を持ったことは地域に飛び
出し、何でもやってみるのがJRC
部。飯南町社会福祉協議会や、地域
の自治組織などと連携し、活動の幅
を広げていきます。



高齢者宅の
窓ふきボランティア



災害から身を守る体験会での
がれき歩き体験(小田真木地区)



分かりやすく「福祉」を伝える
紙芝居を子ども達に披露

板垣 物理的な活動だけでなく、
言葉を交わしたり、心理的な支え
合いもあるということですね。

和久利 地域の人が私たちの活
動に協力してくれるのは、普段
から支え合って暮らしているか
らだと思います。他者のことを
考える「余裕・余白」があるんだ
と思います。

大坂 地域の人に「余裕・余白」
があるのは、皆さんがテーマと
して選んだ「ウェルビーイング
な暮らし」が整っているからこ
そだとも言えますね。

誰かを思いやり、関心を寄せ
ることが出来るのは、飯南町に
心満たされるウェルビーイング
な暮らしがあるから。JRC部
の活動は、まちの豊かさや温か
さを、改めて気づかせてくれま
した。